

第3章

主語が後ろに回る“本当”の理由

拙著『英文法の真相75』でも触れましたが、「情報構造」という考え方は、英語の語順、ひいては英文と英文との統合関係をも理解するために極めて大きな働きを持つものです。

「情報構造」の基本

- 旧情報（既知情報） ➡ なるべく前におく
- 新情報（重点情報） ➡ なるべく後ろにおく

従来、主語が後ろに回るのは、主語が長いからと説明されることが多かったのですが、長さは関係ありません。

日本語でも

「左に見えますのは、東京タワーでございます」

という場合は「東京タワー」に重点が置かれています。

これを

「東京タワーが左に見えます」

という、「あっそう」という感じになってしまい、効果半減です。

この章では、まだまだ一般に浸透しているとは言いがたい、それでいて、いったんわかると英文を読むのに非常に有用な、この情報構造という項目を扱います。